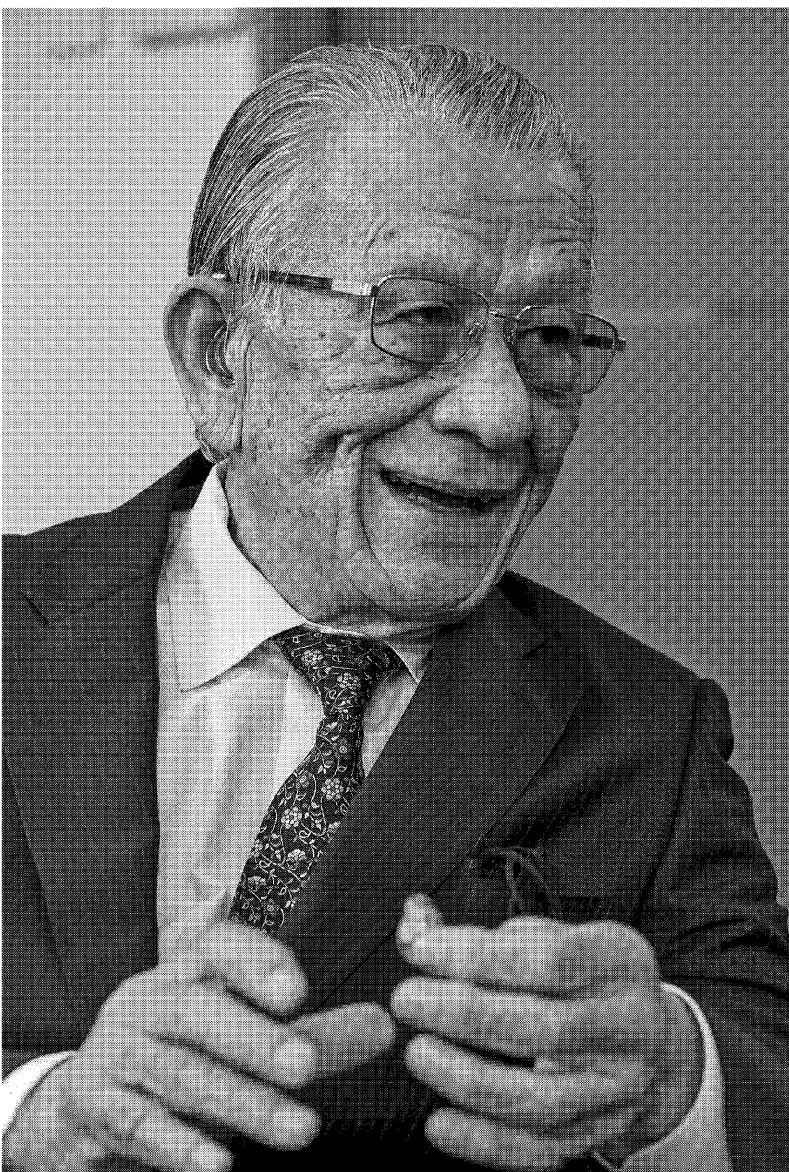


世界人口の減少で 未来はどう変わるのか

社長対談



ハルナグループ創業者 青木 清志氏

1996年の創業以来、ペットボトル飲料分野で躍進を続けるハルナグループ。創業者の青木清志氏は、常に時代の変化を先読みし、企業の成長に結びつけてきた。社会や企業がさまざまな課題とリスクに向き合う中、とりわけ大きなテーマとしてのしかかっているのが人口減少問題だ。世界人口の減少によって未来はどう変わるのか。日刊工業新聞社の井水治博社長が聞いた。

■日本の人口が、なんと100年後 3800万人に!

井水 飲料業のハルナグループ創業者・青木清志さんとの対談は、本日で11回目となります。今回のテーマは「人口問題」です。

「経済は「景気の波」で動く」と一般的に言われていますが、経済は「人口の波」で動くという主張もあります。実際、人口問題とともに経済が語られようとしています。私個人にとっても、大変関心が高い問題です。

青木 紀元後に地球上に生存していた人口はおよそ3億人でしたが、10億人になるまで約8000年費やしています。爆発的に増えたのは直近の2000年間で、大きな戦争があった20世紀でも人口が増え続けましたが、私は今世紀の21世紀末には人口が減っていくと見ておられます。このことは、次なる文明の予兆なのかもしれません。

ある新聞で、かつて「人口減少についてどう考えますか」というアンケートが行われました。記憶によれば、60%の方が肯定的な回答をしました。では、どれくらいまでならいいのかと聞くと、1億人までならいい、と。

現在、日本の人口は約1億2500万人です。2500万人減少ならいい、というの

井水 飲料業のハルナグループ創業者・青木清志さんとの対談は、本日で11回目となります。今回のテーマは「人口問題」です。

「経済は「景気の波」で動く」と一般的に言われていますが、経済は「人口の波」で動くという主張もあります。実際、人口問題とともに経済が語られようとしています。私個人にとっても、大変関心が高い問題です。

青木 紀元後に地球上に生存していた人口はおよそ3億人でしたが、10億人になるまで約8000年費やしています。爆発的に増えたのは直近の2000年間で、大きな戦争があった20世紀でも人口が増え続けましたが、私は今世紀の21世紀末には人口が減っていくと見ておられます。このことは、次なる文明の予兆なのかもしれません。

ある新聞で、かつて「人口減少についてどう考えますか」というアンケートが行われました。記憶によれば、60%の方が肯定的な回答をしました。では、どれくらいまでならいいのかと聞くと、1億人までならいい、と。

現在、日本の人口は約1億2500万人です。2500万人減少ならいい、というの

井水 これまでずっと人口は増えていきました。日本も同様です。明治初期は3500万人弱だったのが、戦後は9000万人を超えています。100年たないうちに2.5倍以上に増えています。

青木 戦争の影響によって、確かに人口が爆発的に増えました。よく言われている通り、世界の人口増という現象は軍事政策の一端で戦争のためでした。日本の場合もそうでした。

井水 「産めよ、殖やせよ」でした。反対に言えば、平時において人口を増やしていくことは、実は日本に限らず、どの国でも難しいことなのかもしれません。人口問題は意外にコントロールできないのではないのでしょうか。

人口論というトマス・ロバート・マルサスが有名で、マルサスは大きく二つのことを前提としています。人口が増えると食料の消費も増えて不足します。男女の性的欲求は変わらず存在する。食料は「プラス」という風にか増えませんが、人口はいわば幾何級数的に増えていく。人口は放置すると増えすぎることを考えていました。

日本もこれまで人口が増えることに対策を練ってきました。ところが、今は反対です。世界にもいえることですが、未来を考える上で非常に重要な考察になります。

青木 国立社会保障・人口問題研究所という機関がありますが、数年前に公表された「将来推計人口」には衝撃的な数字がありました。2050年頃を過ぎると日本の人口は1億人を割り、2070年頃には約7000万人、なんと100年後の2120年頃になると3800万人だといわれています。出生低位・死亡高率の「D」タイプを見ることができ、数字だけを見ると驚かされます。

井水 出生率や死亡率などをおっしゃいます。推計というのには比較的確な数字と言われているんですね。

■子どもを産ませない政策に等しい

青木 冷静に考えると国の機関が出している推計ですが、裏を返せば、政府は「子どもを産ませない」政策を採っているに等しい。政策が少くない状況です。「少子化問題」と高声に叫びながら、子どもを産もうという気にならない環境が続いています。所得も上がっていませんね。推計のように、人口は将来急激に減少します。子どもが少なくなると、結果的に「将来推計人口」には衝撃的な数字がありました。2050年頃を過ぎると日本の人口は1億人を割り、2070年頃には約7000万人、なんと100年後の2120年頃になると3800万人だといわれています。出生低位・死亡高率の「D」タイプを見ることができ、数字だけを見ると驚かされます。

井水 大変不幸なことですね。作務的ではないにせよ、青木 日本は虐待も多く

問われる個人の生き方 競争より「協奏」を

高度経済成長や規模の拡大を頭な求めているのは問題です。適正な成長は必要です。中身を充実させることも大事なこと。新しいビジネスを生み出すなど、質を高めていかなければなりません。

青木 大きければいいというわけではない。単に労働の財にしろ、劣悪な環境を強いた上で外国人労働者に頼っています。

財政赤字も問題です。国内総生産(GDP)比でいうと250%です。欧州の倍あります。また、潜在成長率を見ても上がっていません。今に始まったことではありません。つまり長期的政策がなかったことの証です。将来の成長を見越した適切な支出を出してきませんでした。その日暮しの財政です。

井水 財政赤字について、すでに危機的状況にならないという考えもあります。国債の多くは日本国民が抱えており、どこかに売ることはおそらく問題ない、という見方です。とはいえ、健全ではありませんから放置して

おっしゃる通り政府は少子化推計というのには比較的確な数字と言われているんですね。

■子どもを産ませない政策に等しい

青木 冷静に考えると国の機関が出している推計ですが、裏を返せば、政府は「子どもを産ませない」政策を採っているに等しい。政策が少くない状況です。「少子化問題」と高声に叫びながら、子どもを産もうという気にならない環境が続いています。所得も上がっていませんね。推計のように、人口は将来急激に減少します。子どもが少なくなると、結果的に「将来推計人口」には衝撃的な数字がありました。2050年頃を過ぎると日本の人口は1億人を割り、2070年頃には約7000万人、なんと100年後の2120年頃になると3800万人だといわれています。出生低位・死亡高率の「D」タイプを見ることができ、数字だけを見ると驚かされます。

井水 大変不幸なことですね。作務的ではないにせよ、青木 日本は虐待も多く

井水 各国の人口について、どのように見ていますか。

青木 欧州を見ると、ドイツが約8400万人、イギリスが約6800万人、フランスが約6500万人です。国土面積を考えたとしても、これでも多い。

理想的なのは北欧です。スウェーデンは約1020万人、デンマークは約580万人、ノルウェーは約550万人です。反対に言えば、このくらいの人口だから福祉政策も充実できるんです。先進的な政策が生まれてくるのにも関係しているように思います。

井水 韓国の出生率は驚くべき数字です。1.0人を下っています。

青木 ただ、日本も1.3人程度、シンガポールも1.1人程度、台湾も1.0人程度です。アジアは総じて低い傾向です。欧州のフランスは増えており(1.87人)、イギリスやドイツも1.5人を少し超えるくらいです。欧米は子孫を増やすことを真剣に考えているのかもしれない。中国の人口は14億人を超え、インドが迫ってきているに思えます。

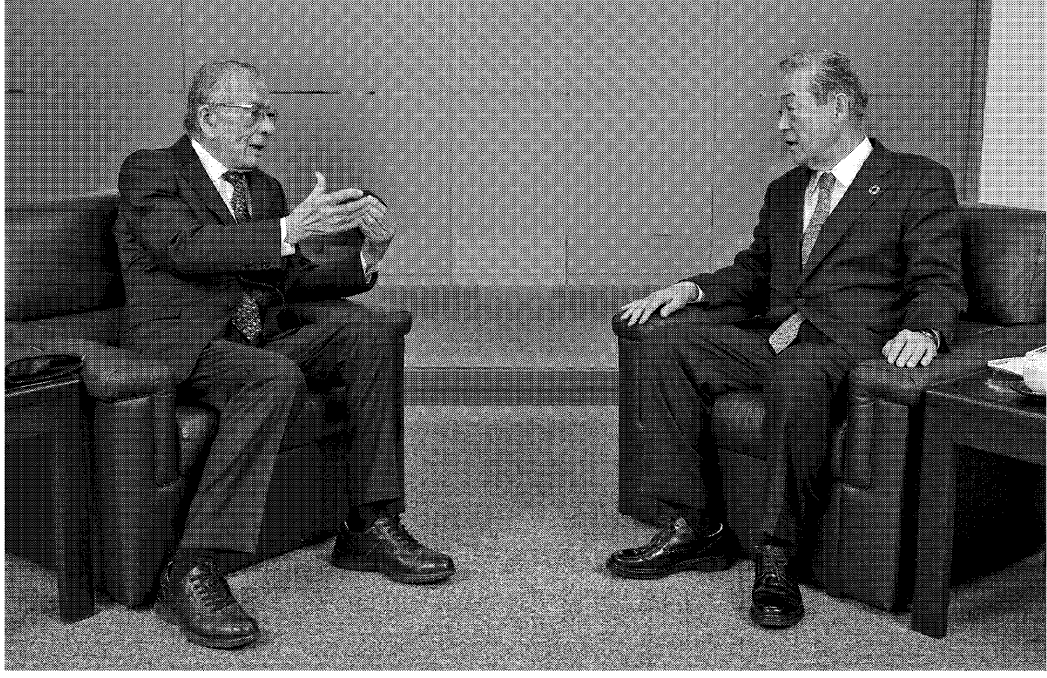
井水 競争より「協奏」を

井水 競争意識は傾きがちで、人口削減は必ずです。もっと一人の考え方や生き方が輝いていく社会、個人を尊重する社会、そういう社会意識が平常となる時代が必要で、さらに国家の関係性にも懸

井水 競争意識は傾きがちで、人口削減は必ずです。もっと一人の考え方や生き方が輝いていく社会、個人を尊重する社会、そういう社会意識が平常となる時代が必要で、さらに国家の関係性にも懸



日刊工業新聞社社長 井水 治博



念じています。最近の出来事ですが、米国は中国を指して「競争者ではなく協奏者」と位置付けておりました。国家のあり方に「勝ち・負ありがどうぞいりました。

井水 本日も貴重なお話をありがとうございました。

念じています。最近の出来事ですが、米国は中国を指して「競争者ではなく協奏者」と位置付けておりました。国家のあり方に「勝ち・負ありがどうぞいりました。

井水 本日も貴重なお話をありがとうございました。

念じています。最近の出来事ですが、米国は中国を指して「競争者ではなく協奏者」と位置付けておりました。国家のあり方に「勝ち・負ありがどうぞいりました。

井水 本日も貴重なお話をありがとうございました。

念じています。最近の出来事ですが、米国は中国を指して「競争者ではなく協奏者」と位置付けておりました。国家のあり方に「勝ち・負ありがどうぞいりました。

井水 本日も貴重なお話をありがとうございました。

